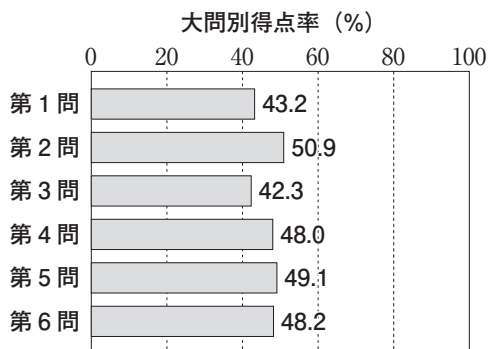
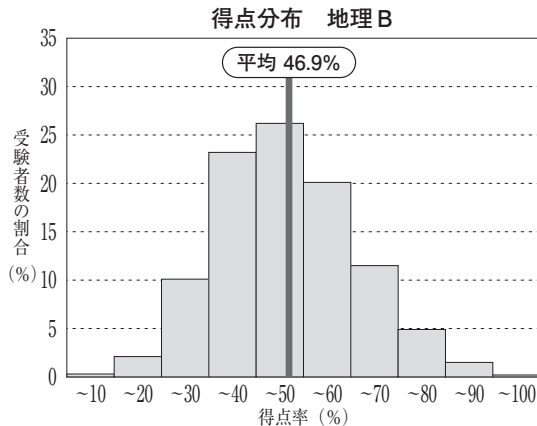


地 理 B

教科書と図説資料集を読み、まずは高校地理の基礎を習得しよう。

I. 全体講評

今回の第1回2月センター試験本番レベル模試の平均点は46.9点であり、5割を下回った。今年度最初の模試ではあったが、物足りない結果が出たと言わざるを得ない。今年のセンター試験本試験の平均点62.0点とは15点以上も差がある。また、高校地理の基礎知識が身につけていないのである。地理は暗記科目ではないが、教科書・図説資料集レベルの必要不可欠な知識については、習得していないと勝負にならない。まずは教科書・図説資料集の内容を頭に入れることから始めよう。多くの受験者が「来年のセンター試験はまだずっと先のこと」と考えているのだろうが、そうではない。今から計画を立て、効率の良い学習に取り組まないと、1年などあつと言う間に過ぎる。Ⅲ. 学習アドバイスをよく



読み、本格的な地理学習に早めに取りかかること。

Ⅱ. 大問別分析

第1問 世界の自然環境と自然災害

自然地理は頻出かつ他分野を学ぶ基礎にもなる重要分野。早めに基本を習得しよう！

大問全体の平均得点率は43.2%であり、6つの大問中で2番目に低く、物足りない結果となった。自然地理分野はセンター試験に毎年出題され、かつ、農林水産業、鉱工業、集落立地、生活文化等の他分野を理解するための基礎にもなる重要分野である。教科書・図説資料集中心の学習で早めに基本を習得すること。問2と問6の正答率がそれぞれ33.6%、31.3%と低かったが、上昇気流の卓越する場所は雨雲が生じやすく多雨、下降気流の卓越する場所は雨雲が生じにくく少雨という「基本中の基本」を理解していない受験者がかなりいた。よく出題される内容なので、当模試の解説や図説資料集を丁寧に読んでしっかりと理解しておくこと。

第2問 第一次産業

この時期としては良い結果が出たが、地中海マグロの畜養についても学んでおこう！

大問全体の平均得点率は50.9%であり、6つの大問中で最も高かった。この時期としてはまずまずの結果となった。全体的によく出来ていた中で、問6は、誤答②の選択率56.0%が正答率20.1%を大きく上回ってしまった。地中海で日本などに輸出されるクロマグロの畜養が盛んであることを知らない受験者が多かった。多くの教科書や図説資料集で扱われているので、読んで知識に加えておくこと。

第3問 村落と都市

都市地理はセンター試験頻出の重要分野である。早めの学習で苦手を克服すること。

大問全体の平均得点率は42.3%であり、6つの大問中で最も低かった。主に村落を扱った問1・2の出来はまずまずであったが、都市を扱った問3~6

の出来が悪かった。最も正答率が低かったのは問3であり、誤答③の選択率 42.3% が、正答率 24.8% を上回ってしまった。多くの受験者が、スラム人口率の最も高いウを中南アフリカのナイジェリアと判断することはできたが、アとイについては、スラム人口率の高いアを所得水準でアルゼンチンに劣るタイ、都市人口率の低いイを農業国のアルゼンチンのグラフと考えてしまった。白人が都市を拠点に入植したアルゼンチンのような新大陸の国々は都市人口率が高く、このことは都市地理の基礎事項である。この機会にしっかりと頭に入れておくこと。

第4問 東アジア

中国を経済成長に導いた経済特区と経済技術開発区について正しく理解しておこう！

大問全体の平均得点率は 48.0% であった。問5の出来が極めて悪く、正答率 18.5% は全小問中で最低である。経済特区と経済技術開発区が中国の驚異的な工業化と経済成長に貢献したことは多くの受験者が知っていた。しかし、その設置時期や設置目的を正確に理解していた受験者は、全体の2割にも満たなかった。センター試験の地理は、用語を暗記するだけではよい結果を得られない。重要な用語に関して正確に理解することで、はじめて高得点を実現する。経済特区と経済技術開発区については、教科書も図説資料集も丁寧に解説しているものが多い。よく読んでしっかりと理解しておくこと。

第5問 ドイツとフランス

学習が後回しになりがちな地誌の大問としては良好な結果となった。自信を持とう！

大問全体の平均得点率は 49.1% であり、6つの大問中で2番目に高かった。地誌は多くの高校が系統地理を学習し終えた後に扱うため、年度の前半は得点率が低くなりがちなのだが、本大問はこの時期にしては良く出来ていた。ドイツとフランスというなじみ深い国が対象であったということもあるが、結果の良かった受験者は自信を持っていい。今後は、今年のセンター本試験で対象とされたウクライナとウズベキスタンのような、ややなじみの薄い国々が出題されても対応できるよう、基礎知識の拡充に努めよう。

第6問 地域調査 (北海道)

高校地理を理解するために必要な知識を早く習得し、図表問題の正答率を上げよう！

大問全体の平均得点率は 48.2% であった。最も正答率が低かったのは問5であり、24.3% であった。北海道が全国で最低である耕地面積 1 ha 当たり農業産出額に該当する記号を、正しくスと判断出来た受験者は、全体の 26.9% しかいなかった。広大な農地・牧場を少人数で経営する粗放的な農業においては、労働生産性（農民一人当たりの生産量・生産額）は高くなるが、土地生産性（農地面積当たりの生産量・生産額）は低くなる。次に正答率が低かったのは問2であり、24.6% であった。夏の最暖月平均気温が最も低いアを、釧路に該当すると正しく判断できた受験者は、全体の 40.3% に過ぎなかった。夏の東北日本の太平洋岸は、冷湿なやませを吹き出すオホーツク海気団や、寒流の親潮（千島海流）の影響であまり気温が上がらない。高校地理を理解するために必要不可欠な知識を早めに習得し、図表問題の正答率を上げていきたい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆まずは基礎知識を習得する。

地理は暗記力ではないが、高校地理の基礎知識を習得せずに高得点は望めない。実際、今回の結果を見ると、低正答率の問題の多くが基礎知識不足によるものであった。細かい地名・用語を丸暗記する必要はないが、教科書や図説資料集が扱う事項は、内容を理解し、頭に入れる必要がある。まずは自然、産業、都市、民族、地誌…のように、高校地理の全範囲を項目毎に分けて網羅した問題集を用意し、教科書や図説資料集を参考にしながら、完全解答を作るつもりで取り組んでみるとよい。

◆気候グラフ問題に取り組む。

今回の模試では気候グラフ問題（解答番号 6, 31）の出来が悪かった。気候グラフを読み解く力は、センター試験の過去問やセンター型問題集で、実際に多くの問題を解いてみると徐々に養われる。